

ライデン大学日本学科とオランダの教育制度

秋富 創

〈要旨〉

本稿は、筆者が2015年度に滞在したライデン、およびライデン大学日本学科について、オランダの教育制度を交えながら論述するものである。オランダ沿岸部の幹線上に位置するライデンは12万人ほどの小さな街であるが、16世紀にスペインから独立する際のいわゆる八十年戦争中に設立された、オランダ最古のライデン大学があることで知られる。オランダの教育制度は日本とは異なり、13歳以上の中等教育においては、WO と HBO という2つの高等教育にそれぞれ直結するコース、あるいは、比較的高度な技術を要しない職業教育に従事する機関に直結するコース、などに分かれているものの、ある程度の柔軟性は確保されている。

ライデンはまた、日本を追放されたシーボルトが居を構えた街としても有名であるが、ライデン大学は、世界で最初の日本学科が設立されたことでも知られており、ここはオランダ唯一で、ヨーロッパ最大規模の日本学研究の拠点となっている。WO の学士課程は3年間であるが、日本学科には1学年あたり100名前後の学生が在籍している。学生たちは在学中に語学を履修するだけでなく、異文化への理解を深め、大多数は卒業後、日本と関わり合いのない仕事に従事している。

キーワード：オランダ、ライデン、大学、教育、日本学

はじめに

筆者は2015年度、学院から在外研究の機会を与えられ、オランダのライデンに所在する International Institute for Asian Studies (IIAS) にフェローとして在籍した。この機関はライデン大学を始め、複数の研究施設の付属機関となっているが、建物そのものがライデン大学のすぐ近くにあるし、フェローにはライデン大学の ID が発行され、学内の PC ネットワークや図書館の利用が許可される。ライデン大学はオランダ最古の大学であるが、同時にオランダ唯一の、そしてヨーロッパ最大規模の日本学研究の拠点でもある。筆者はライデンに滞在中数度にわたって、ライデン大学の教員や現地に居住する人びとにインタビューする機会に恵まれたが、本稿では、その際得られた知見に対して多少の私見を加える形で、暫定的ではあるが成果の一部というべきものを提示してみたい¹⁾。なお当然

の話であるが、本文中に出てくる情報、データなどの正誤に関する全責任は、私がインタビューした方々ではなく、私自身に帰属することを予めお断りしておく。

1. ライデンの成り立ち

(1) オランダにおけるライデン

オランダは、九州ほどの国土に1700万人余りの人びとが住む小国である。ちなみに九州7県の総人口は1300万人ほどなので、九州よりも人口密度は多い。ただし、オランダからドイツ北部にかけては驚くほど土地が平坦で、山らしい山は全く見えないので、土地の条件としては、山がちな我が国よりもはるかに恵まれていると言える。首都であり、経済の中心地のアムステルダム、政治の中心地のデン・ハーグ、フェルメールゆかりの地で、焼き物で有名なデルフト、ヨーロッパを代表する貿易港であるロッテルダム、といったオランダを代表するいくつかの都市は北海に沿って、北東から南西へほぼ一直線上に並んでいる。国際列車に乗ってこの幹線をさらに南下すれば、ベルギーのアントワープやブリュッセル、果てはそのまま直通でパリに行くことも出来る。その中でライデンは、アムステルダムからNS（オランダ鉄道）の急行列車で南下すること30分ほどの所に位置している。ヨーロッパのハブ空港であるスキポールが、ちょうどアムステルダムとライデンの中間地点にある感じなので、スキポールから北に15分行けばアムステルダム、その反対に南に15分行けばライデンといったところである。

ライデンは12万人ほどの小さな街であり、日本で言えば鄙びた地方都市といった規模に過ぎない。街の中心は外側の運河に囲まれた、縦横1km 四方よりやや大きめの四角形の内部にある。オランダの都市の人口ランキングを見ると、1位のアムステルダムでも80万人ほどの人口に過ぎず、7位以降は20万人を切っている。ライデンは22位である²⁾。後でも述べるが、ライデン大学の学生数が2万5000人ほどなので、仮に学生全員が市内に居住しているとすれば、いかに学生が占める割合が大きい都市であるかということが分かる。特定の都市に人口が集中するのではなく、多くの都市に人口が拡散しているというのは、隣国ドイツと状況が似ているかも知れないが³⁾、オランダ政府は戦後、意図的にこのような状況を誘導する都市政策を採用したという話を聞いた。私がインタビューしたある人によると、オランダ人にとっては職住近接が当たり前であり、たとえば通勤30分というのは「長時間」なのだそうだ。昔アムステルダムに住んでいたある人は、職場がロッテルダムに変わるとそちらに引っ越してしまったらしい。先にNS 幹線の急行列車に言及したが、これに乗るとアムステルダムからロッテルダムへは1時間ほどである。日本人、ことに首都圏在住の日本人からすれば、1時間の通勤時間などは珍しくも何ともないが、オランダ人を納得させるのはおそらく難しいに違いない。日本はオランダの8倍ほどの人口、9倍ほどの国土面積を持ち、両国を単純に比較することは出来ないが、10人に1人が東京に居住し（アムステルダムには、オランダ人20人に1人が居住）、4人に1人が首都圏に居住してい

るという一極集中の状況、さらにはそのことが惹起している長い通勤時間、高額で狭小な住宅といった社会環境が、我々を本当に幸せにしているのかどうか、といったことを今更ながら考えさせられる。

(2) 八十年戦争とライデン

ライデンは小都市ではあるが、今ではオランダを代表する大学都市としての一面を持っている。しかし、居住地としてのライデンは遙か以前の時代にまで遡ることが出来る。発掘調査からは、間氷期（紀元前500～300年）には人が住んでいたことが分かっているし、1世紀のほとんど欠損のないローマ人騎馬兵の面も発見されている。2013年にライデン近郊で7世紀の、おそらく中東産であろう銀製の皿が発見されており、その当時すでに国際ネットワークを持つ人びとが居住していたと推定される。1000年頃からは、ライン川沿岸のこの土地に定住者が生活していたのは確実にされている。

9世紀には「3つの水」(drie Leithen) と呼ばれた開拓地が存在していたことが、文書で明らかにされている。3つの水とはライン (Rijn)、フリート (Vliet)、マーレ (Mare) であり、これらが意味するところの川や水路とは、開拓者にとって戦略上重要な拠点となった。現在も市内を流れているライン川の2つの支流間にある高地 (Hogeland) には、木製の要塞が築かれ、現在のブレーストラート (Breestraat) 付近には住宅が建てられた。現在のライデン市役所 (Gemeente) はこの通りに面して建てられており、その付近は繁華街となっている。さらに南に行くと、壁と堀によって守られた、最初のホラント伯 (graaf van Holland) が居を構えた地区があり、ここは現在ではラーペンブルフ (Rapunburg) と呼ばれている。ライデン大学の本部や図書館、医学部や法学部を除く大半の学部の建物、私が所属した IIAS などに加えて、イギリスから避難してきた清教徒が埋葬されている聖ペテロ教会 (Pieterskerk)、現在はライデン大学施設になっている、ホラント伯が設けた牢獄 (Gravensteen) などこの一角にある。1200年頃ライデン市民は自治権を獲得し、上述した2支流間の高地には煉瓦造りの城塞 (Burcht) が築かれた。この跡は現在でも残っており、高台には容易に登ることが出来る。その後ライデンは成長を続け、14～15世紀には毛織物業で隆盛を極めることになった。

16世紀のオランダは、現在のオランダ、ベルギー、ルクセンブルクとドイツ・フランスの一部を含むネーデルラント17州として、スペイン・ハプスブルク家のフェリペ2世によって統治されていたが、宗教改革が確実に地歩を固めるにつれて、カトリックとの対立は高まっていった。1568年には八十年戦争（オランダ独立戦争）が勃発し、オランダはこの地の有力貴族であるオラニエ公ウィレム1世（沈黙公）を先頭に、スペインに反旗を翻した。1574年、ライデンは数ヶ月間スペイン軍に包囲され、飢餓とペストで人口の3分の1を失った。ウィレム1世はスペイン軍撃退のために、ライデン近郊を沈めるべく堤防を決壊させたところ、スペイン軍は慌てて撤退し、10月3日にはウィレム1世の兵团ワターヒューゼン (Watergeuzen) が、飢える市民のために生ニシンと白パンを持って城壁内に入っていつ

た。この日はライデン市にとって特別な日であり、今でも一日中街中がお祭り騒ぎになる。

ライデンは八十年戦争中、スペイン軍の包囲を耐え凌ぎ、解放にまでこぎ着けた勇敢な町の1つとして数えられた。オランダ連邦共和国は解放翌年の1575年、スペイン軍の降伏を拒んだこの町に、「是、自由のために」(Praesidium Libertatis)をモットーに大学を設立することを決定した。言い伝えでは、市民は大学の設立か納税の義務かの選択を迫られ、前者を選択したのだという。設立当初は、修道院の礼拝堂が大学の建物として利用され、現在そこは大学講堂として使われている。以来数世紀、このオランダ最古の大学では、オランダ王室のメンバーを含め、多くの著名人が学んできており、この講堂のズウェートカメルチェ (zweetkamertje) と呼ばれる小部屋には、歴代卒業生の名前が刻まれている。現在の王室オラニエ＝ナッサウ家 (Huis Oranje-Nassau) の前女王ベアトリクス、現国王ウィレム＝アレクサンダーはともにライデン大学の卒業生である。

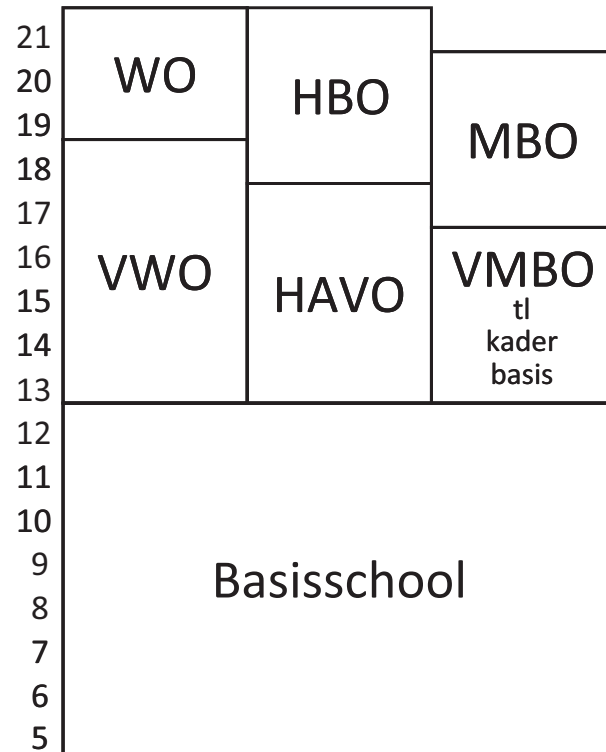
2. ライデン大学日学科

(1) オランダの教育制度とライデン大学

オランダの高等教育機関は、研究大学 (WO) と高等職業教育機関 (HBO) の2つからなる⁴⁾。後者は、現在我が国でも設立準備が進められている、職業教育に特化した機関に該当し、実学を重視している。両者を卒業すればともに学士の学位を取得できるものの、入学年齢と修業年数に違いがあり、WOは19歳 (に達する年度) 入学で3年間、HBOは18歳入学で4年間、である。これらの差異は中等教育機関における学修課程の違いを反映している。オランダの初等教育は5～12歳の8年間であるが、12歳 (group 8) の2月に、CITO テスト (citotoets) と呼ばれる全国一斉試験があり (現在8割以上の学校が活用)、その後進路相談が行われて、次年度以降の中等教育の進学先を決定する仕組みになっている。将来 WO に進学を希望する生徒は通常6年間の VWO に進学し、同様に HBO を希望する生徒は5年間の HAVO に進学し、中等教育を修了した後にそれぞれ WO・HBO に進学する。しかし、中等教育と高等教育が直結しているように見えるこのような制度は、ある程度の柔軟性を併せ持っており、一旦 VWO や HAVO に進学しても、途中で進路変更することは可能である。たとえば私が知り合ったある男子学生 (両親は他国の出身だが、彼自身はオランダで生まれた) は、一旦 VWO に進学したものの、勉強について行くことが出来なかったため HAVO へ転校し⁵⁾、その後そのまま HBO に進学したものの、1年生の課程修了後 WO (ライデン大学) に入学した⁶⁾。オランダの教育制度は、まだ年端もいかないうち12歳の児童に、重要な人生の選択を迫る厳しいものにも見えるが、VWO・HAVO・HBO・WO とジグザグに渡り歩いた彼の人生からも窺えるように、セーフティネットがきちんと用意されている。なお、この他には MBO という職業教育機関があり、ここに直結する VMBO という中等教育機関があるが、MBO は高等教育機関の扱いではない。HBO と MBO は同じ職業教育に特化した機関であるといっても、たとえば教員に

なるものは HBO（オランダの WO には、日本のような教育学部はない）、大工や配管工になるものは MBO へそれぞれ進学する、といった棲み分けがされている（図1）。

図1 オランダの教育制度



WO	Het wetenschappelijk onderwijs (The scientific/academic education)
HBO	Het hoger beroepsonderwijs (The higher vocational education)
MBO	Het middelbaar beroepsonderwijs (The middle vocational education)
VWO	Het voorbereidend wetenschappelijk onderwijs (The preliminary scientific/academic education)
HAVO	Het hoger algemeen voortgezet onderwijs (The higher general secondary [continued] education)
VMBO	Het voorbereidend middelbaar beroepsonderwijs (The preliminary middle vocational education)

出典：筆者作成。

オランダには13の公立大学といくつかの私立大学（WO）、40以上の HBO がある⁷⁾。2011～12年現在、13の公立大学には24万5000人、HBO には42万4000人ほどの学生が在籍している。統計では私立大学の学生数は空欄になっているので、それらはごく少数である

と推定できる⁸⁾。ちなみにライデンにも、アメリカ資本のウェブスター (Webster) 大学があるが、外見はとても小さな規模のものである。

公立大学が13校しかないというのは、8倍の人口差を斟酌するとしても、大学・短大が800余りもある我が国と比較すると、とても少ないという印象を受ける。しかしオランダでは、そもそも高等教育進学率が我が国よりも著しく低い。たとえば2013年現在、15～64歳の生産年齢人口1101万人の中で、WO 修了者は116万人、HBO 修了者は201万人ほどに過ぎない。ちなみに2003年には、生産年齢人口1090万人中それぞれ83万人、159万人であった⁹⁾。このようなデータを見ると、近年進学率が上昇しているとは言え、オランダでは高等教育機関、特に WO に進学するのは、依然として少数の「エリート」であると言える。

これらの高等教育機関の中でも、オランダ最古のライデン大学には2015年現在、7学部25800人の学生、5500人の教職員が在籍し、7000人に学位が授与されている。7学部とは、考古学 (Archaeology)、行政及びグローバル事情学 (Government and Global Affairs)、人文学 (Humanities)、法学 (Law)、医学 (Medicine)、自然科学 (Science)、社会及び行動科学 (Social and Behavioural Science) の各学部である¹⁰⁾。日本学科 (Japan Studies) はこの中の人文学部に属している¹¹⁾。公然と偏差値がまかり通っている我が国とは異なり、オランダでは13の公立大学に優劣はなく、各大学がそれぞれ特色ある教育を打ち出している。たとえばデルフト工科大学だとその名の通り工学、アムステルダム大学だと経済学、ライデン大学だと医学部や法学部が有名といった具合である。オランダの大学には入学試験はないので、VWO を修了していればどここの大学、学部でも入学を志願する権利はある。しかし、ライデン大学では、たとえば医学部は人気があり志願者数が多数になることもあるので、その場合には、VWO での卒業試験の成績を参考にして選抜が行われるとのことである。施設や設備の関係上、医学部では無制限に学生を受け入れるわけにはいかないであろう。

(2) 日本学科の成り立ち

ライデン大学では1855年、世界で初めて日本学科が設立された。ライデンは、1828年に日本を追放されたシーボルトが、帰国後居を構えた町として知られるが、そのシーボルトの弟子であるヨハン・ヨーゼフ・ホフマン (Johann Joseph Hoffmann) が、初代の日本語担当教授を務めたこともある。ちなみにシーボルト自身が1832年から住んでいた、上述のラーペンブルフ地区にある邸宅は、現在シーボルトハウス (SieboldHuis) として、彼が日本から持ち帰ってきた貴重なコレクションとともに一般公開されている。現在の日本学科の研究室は中国・朝鮮学科とともに、大学の食堂、カフェテリアに程近いアルセナール (Arsenaal) と呼ばれる建物に所在している。この建物の1階は吹き抜けの広々としたホールとなっており、2階には日本・中国・朝鮮学科の合同図書館があり、1・2階には各教員の研究室が点在している。1階のホールは学生が自由に使用できるスペースとなっており、自分の PC を机の上に置き、勉強や議論に興じている学生のグループを頻繁に見か

けた。食堂やカフェテリアでもそうだったが、この建物の中にいるとオランダ語や英語に混じってときどき日本語も聞こえてくるので、なんだか不思議な気分に乗られたものである。

上述したようにオランダの大学には入学試験はないので、日本学科においても志願者は全員入学が許可される。中国学科の場合は、2014年度の入学者数は90名だったのに対して、15年度はわずか60名に減少した。これとは対照的に日本学科の入学者数は最近、100～130名ほどで比較的安定しているとのことである。ただし、入学後12月くらいまでの間に1割くらいの学生が転部・転科などを希望するため、2年次には100名くらいの学生数になり、これがさらに10名ほど減り、最終的に3年次になると90名くらいになる。

2015年現在、日本学科の専任教員は20名で、このうちおよそ6割が語学以外の専門科目の教員である。オランダ人以外の外国人が全体の3分の1ほどを占めており、たとえば学科長はポーランド人である。もちろん日本人、あるいは日本出身の教員も数人いる。授業のカリキュラムについては後に述べることになるが、我が国と決定的に違うのは、非常勤講師が担当する授業がほとんどなく、専任教員によってまかなわれているという点であろう。傍目から見た感じでは、授業や雑事に追われて、日々の教員の仕事が忙しそうだという印象は特段なかったが、さりとて安穩と出来るという状況でもなさそうである。私が滞在した15年度も新たに教員が任用されたらしいが、これも当初は任期付きとのことである。昇任については微妙な問題のため質問することが憚られたのだが、話を聞いている限りどうやら、我が国の通常の文系学部とは異なり、研究業績や勤続年数を重ねていけば多くの教員が教授に昇任出来る、ということではないらしい。教員の身からすると、我が国で言うところの科研費のような競争的資金も含めて、研究費が年々減らされているという状況があるし、あるいは上述の中国学科の例のように、今後学生数が減少する場合にスタッフの雇用がどこまで保証されるのか、という懸念もあるとのことである。全体を通じて、日本学科の教員の話聞いていて特に興味深かったのは、教員組織の内部あるいは教員と学生との関係が比較的オープンで、我が国よりも自由闊達な議論が出来る環境にあるのではないか、という点である。たとえば教授会には学生代表も陪席することが出来るし、教員任用の面接の際には、任用の可否をめぐって学生代表も1票を投じることが出来る。大学生活に関して学生には、積極的に意見を表明したり、異議申し立てを行う機会が与えられており、ある女子学生などは成績をめぐって、わざわざ学科長のところまで行って直訴し、滔滔と自説を披露した、といった具合である。国情や文化の違いと言い放ってしまえばそれまでであるが、そのような話をいくつか聞いていると、我が国の大学もオランダの大学を何かしら見倣う必要があるのではないかと、という思いにふと駆られた。

(3) 日本学科のカリキュラム

次に日本学科（学士課程）のカリキュラムについて見てみたい。2015/16年度の日本学科の学事歴は8月31日から始まっており、1年間は2つのセメスター、4つのブロックに分割

されている。つまり所謂クォーター制が導入されており、1年間は1- I・1- II・2- III・2- IVという4つの時期から構成されている。セメスターとセメスターの間隔は、その間に長期休暇が入るので必然的にかなり空くことになるが、セメスター内のブロックとブロックの間にも1週間の試験期間が設けられているので、前後のブロックは連続していない。1つのブロックあたりの各曜日の授業回数は5～7回と不均等であり、このあたりも、各曜日等しく各期15回の授業回数を確保している、本学（あるいは我が国の大学）とは事情がだいぶ異なっている。学生は1セメスターにつきそれぞれ30単位、3年間で合計180単位を取得して卒業となるが、気を付けなければならないのは、「プロペデューセ」(propedeuse)である。これは、1年次修了時に進級できないことが確定すると、その時点で強制的に退学させられるという、ヨーロッパの大学で導入されている制度である。

学生が1年次(Eerste jaar)に履修すべき授業は、表1の冒頭に示されている。Levelとは授業の難易度であり、数字が大きくなるほど難易度は高くなる。学部の授業は100～400であるが、大学院の授業は400と500のみである。ECとは単位を示しており、1セメスターにつき30単位、1年間に60単位を取得しなければならないので、単純計算すれば分かるように、1年次ではこの表の全科目を履修することになる。周知のように、ヨーロッパ29カ国の高等教育担当大臣は、1999年6月にイタリアのボローニャにて、「ボローニャ宣言」(Bologna Declaration)と呼ばれる、ヨーロッパ共同宣言に署名しており、1セメスターにつき30単位というこの仕組みは、そのときに提示された欧州単位互換制度(ECTS)に則っている¹²⁾。

表1 Japan Studies, 2015-2016

Eerste jaar

Course	Semester	Block	EC	Level
<i>Eerste semester</i>				
History of Japan to 1868	1	I, II	5	100
Japan in the 21st Century: Sociological Perspective	1	I, II	5	100
Structure: Japanese Grammar I a	1	I, II	5	100
Area Studies	1	I, II	5	100
Applied linguistics I a: Conversation & listening skills	1	I, II	3	100
Applied linguistics I a: Kanji	1	I, II	2	100
Teksten I a	1	I, II	5	100
Mentoraat BA1 Japanstudies	1	I, II	—	0
<i>Tweede semester</i>				

Modern Japanese History	2	III, IV	5	100
Arts and Material Culture of Japan	2	III, IV	5	100
Structure: Japanese Grammar I b	2	III, IV	5	100
Applied linguistics I b: Conversation & listening skills	2	III, IV	3	100
Applied linguistics I b: Kanji	2	III, IV	2	100
Teksten I b	2	III, IV	5	100
Academic Skills (Japanese Studies)	2	III, IV	5	100

Tweede jaar

Course	Semester	Block	EC	Level
<i>Eerste semester</i>				
Philosophy of Science	1	I, II	5	200
Applied linguistics II a: Conversation & listening skills	1	I, II	3	200
Applied linguistics II a: Kanji	1	I, II	2	200
Teksten II a, inclusief Taaltechnieken en hulpmiddelen	1	I, II	5	200
<i>Kies twee BA2 seminars of een seminar en een lecture:</i>				
PEIR Lecture Introduction to Japanese Economy	1	I, II	5	200
SC Lecture Law and Society	1	I, II	5	200
SC Japanese Religions and Buddhism	1	I, II	5	200
MACH Seminar Art and Gender	1	I, II	5	200
MACH Seminar Japan's Empire, Images and Realities	1	I, II	5	200
LL Seminar Japanese as a second language	1	I, II	5	200
<i>Keuzevak bij Koreaans, Chinees, Zuid Azië (India en Tibet) of Zuid-Oost Azië (Indonesië) (gedeeld onderwijs)</i>				
gedeeld onderwijs: cursus bij Koreaans, Chinees, of SSEA =Zuid Azië (India en Tibet) of Zuid-Oost Azië (Indonesië)	1	I, II	5	100
<i>Tweede semester</i>				
Applied linguistics II b: Production	2	III	2	200
Applied linguistics II b: Texts	2	III	3	200
<i>Kies twee BA2 seminars of een seminar en een lecture (FAT cursussen, alleen in blok III):</i>				
MACH Lecture Film in Japan	2	III	5	200

PEIR Seminar Politics	2	III	5	200
PEIR Seminar International Politics and Economy of East Asia	2	III	5	200
SC Seminar Anthropology	2	III	5	200
SC Seminar Sociology	2	III	5	200
LL Seminar Japanese Linguistics	2	III	5	200
<i>NOTE: SC Seminar Pelgrimage zal allen worden aangeboden als zich minder dan 10 studenten aanmelden voor FAT groep Klassiek Japans</i>				
SC Seminar Pelgrimage	2	III	5	200
<i>FAT groep Klassiek Japans voor studenten met premoderne interesses (gaat allen door met minimum 10 deelnemers)</i>				
Klassiek Japans	2	III	5	200
<i>Buitenland verblijf</i>				
Study abroad Japan / study abroad University Nagasaki	2	IV	15	300
<i>Thuisblijversprogramma (in plaats van Studieverblijf)</i>				
gedeeld onderwijs cursus bij Koreaans Chinees, of SSEA =Zuid Azië (India en Tibet) of Zuid-Oost Azië (Indonesië)	2	III, IV	5	100
Applied linguistics II c: Production (fat)	2	IV	5	200
Applied linguistics II c: Texts (fat)	2	IV	5	200

Derde jaar

Course	Semester	Block	EC	Level
Eerste semester				
<i>Vrije keuzeruimte 15 ECTS</i>				
Introduction to Classical Japanese	1	I, II	5	300
<i>Kies een BA3 Seminars met daaraan gekoppeld Teksten Seminar:</i>				
Sino-Japanese Relations Seminar	1	I, II	5	300
JS Seminar PEIR	1	I, II	5	300
JS Text Seminar PEIR	1	I, II	5	300
JS Seminar LL	1	I, II	5	300
JS Text Seminar LL	1	I, II	5	300
JS Seminar MACH	1	I, II	5	300

JS Text Seminar MACH	1	I, II	5	300
JS Seminar SC	1	I, II	5	300
JS Text Seminar SC	1	I, II	5	300
<i>Tweede semester</i>				
<i>Vrije keuzeruimte 15 ECTS</i>				
<i>Eindwerkstuk BA</i>				
BA - Final essay Japan Studies 2015-2016	2	III, IV	10	400
<i>Eén Afstudeer Seminar van 5 EC in combinatie met taalcomponent:</i>				
JS Graduation Seminar (MACH1)	2	III, IV	5	400
JS Graduation Seminar (MACH2)	2	III, IV	5	400
JS Graduation Seminar (MACH3)	2	III, IV	5	400
JS Graduation Seminar (LL)	2	III, IV	5	400
JS Graduation Seminar (PEIR1)	2	III, IV	5	400
JS Graduation Seminar (PEIR2)	2	III, IV	5	400
JS Graduation Seminar (SC2)	2	III, IV	5	400
JS Graduation Seminar (SC3)	2	III, IV	5	400
JS Graduation Seminar (SC4)	2	III, IV	5	400
<i>Bezemklas Teksten Seminar voor studenten die dit in het eerste semester niet hebben gehaald, (wel > 4, 5) dan deelname aan 'bezemklas'</i>				
Texts Seminar (all clusters, 'broom class')	2	III	5	300

出典：https://studiegids.leidenuniv.nl/en/studies/show/3835/japanstudies#tab2（2017年3月26日閲覧）

2年次（Tweede jaar）になると、学生ごとに履修科目が変わってくる。ここでは全員共通の必修科目に加えて、4つの専門分野のカテゴリー（クラスター）の中から2つを選択し、演習2科目または演習と講義1科目ずつを履修することになる。4つのクラスターとは、言語・言語学（Language and Linguistics [LL]）、メディア・芸術・文化・歴史（Media, Arts, Culture and History [MACH]）、政治経済・国際関係（Political Economy and International Relations [PEIR]）、社会・文化（Society and Culture [S & C]）、である。3年次になると、この中の1つのクラスターに属する演習に入って卒業論文を執筆することになる。第2セメスター第4ブロックには、日本への短期留学のプログラムが用意されている（3月末より約3ヶ月間）。参加は義務ではなく、参加しない場合は代替の授業を受けることによって、このプログラムと同等の15単位を取得する。現在のところ成績上位15名が

長崎大学、それ以外の学生は福岡の語学学校に行くことになっているが、後者の場合、その建物の中で全ての生活が完結してしまうので、結果的に学生は建物から外に出かけることが少なくなっている、という問題点がある。このプログラムにかかる、1人あたり数千ユーロの費用は全額大学側が負担しており、留学は学科として、大きな「売り」の1つになっているとのことである。

3年次 (Derde jaar) になると、上述のように学生は、特定のクラスターの中にある演習を履修することになるが、その一方で、講義科目はほとんど用意されていない。この学年で特徴的なのは、2つのセメスターでともに、15単位が副専攻に充てられるということである。1つのセメスターは30単位であるから、1年間で実に単位の半分は、人文学部以外のほかの学部も含めて、日本学科以外の科目を履修して取得する仕組みになっている。

おわりに ―「世界への窓」としての日本―

ライデンに滞在中、私が話を聞いた教員の印象的な言葉がある。それは、「日本学科は日本理解のためだけにあるのではなく、異文化理解のためにこそある」というものだ。このことに関連した体験談を最後に書き記してみたい。私が知り合った日本学科の学生たちは、こちらが思っていた以上に日本のことを知っているし、日本語でも十分話を通じた。本稿では学部のことしか言及しなかったが、大学院生ともなると驚くほどの語学力がある。1回彼らの授業をのぞかせてもらったが、講義の内容（そのときは「小論文をまとめる」という内容であった）は、私が普段学生に対して話しているようなものであったし、教員による説明の仕方も「噛んで含めるように教える」といった感じではなく、日本人相手のように普通に話をしていた。よく言われることだが、日本に興味を持ったきっかけとしては、確かにマンガやアニメの影響が大きいようではある。上述したアルセナール1階のホールでは、ときどき学生主催のイベントが開かれるのだが、そこで日本学科新入生歓迎会が開催されたとき、その場に居合わせた2年生の男子学生は、カバンに入れていた『北斗の拳』を取り出して色々と話をしてくれた。このホール上の2階にある合同図書館の書庫（学部学生は入室不可のようである）には、日本語の書籍や雑誌がかなり所蔵されているのだが（製本された学生の卒業論文や、小さな地方大学の紀要もあった）、面白いことにその書架の一角には、『ドラえもん』や『ワンピース』といったマンガがずらっと並べられていた。本には「禁帯出」のシールは貼られていなかったのも、きっと貸出もしているのであらう。

しかし、日本学科の学生の大半が、日本とは関係のない仕事に就くというのもまた事実である。日系企業や、日本の大使館や領事館といった公的機関に勤める学生が皆無というわけではないが、ごく少数派に過ぎない。オランダを含めた海外の企業では、日本企業のように、新卒学生を特定の時期に一括採用するという習慣はないので、学生は在学中にアルバイト、あるいは長期のインターンシップなどに従事して、自らの技能や就業可能性を

高め、自分の足で粘り強く就職先を見つけることになる。私がライデンに行ってすぐの時期に、アルセナールの1階ホールで「就職説明会」が開かれていることがあった。その日ばかりは学生もスーツに身を固め、企業ごとに分かれたブースに並んで熱心に話を聞いていた。私はてっきり我が国の様々な大学が開催しているような、学校側が主催する公のイベントであるとはばかり思っていたのだが、後から聞いたところでは、それは（在学生及び卒業生からなる）学生団体の自主的なイベントであった。大学なり学科は場所を貸すだけでこの行事には関わっておらず、各ブースではそれぞれの企業に勤めている卒業生が、後輩である在学生に対して色々と言明していたわけである。きっとこれらの企業も、すべてオランダの企業であるに違いない。私が色々と言明聞いたある女子学生（上述の男子学生と同様に、両親は他国の出身だが、自身はオランダで生まれた）は、国際機関に勤めることが目標で日夜色々と言明しているようであったが、彼女には特に、将来日本語を使って何か自分の仕事に役立てよう、という気はなさそうであった。国際機関ならば英語が標準語であるはずだから尚更である。しかし彼女は、福岡の語学学校に短期留学することをとても楽しみにしていた。

だいたい前に聞いた話だが、世界でよく知られているアメリカのある著名な投資家は、これからの世界では中国語が有望だということで、子どもの世話をさせる家政婦として中国人を雇っているそうである。これからの国際情勢を第一に考えるのならば、英語や中国語を習得することは実利的には相応しい選択なのであろう。しかし、上述の通りライデン大学を見る限り、中国学科の規模が突出しているというわけではない。シーボルトを始めとする先人たちによって培われてきた日蘭交流の歴史という背景もあって、むしろ日本学科への入学を希望する学生の方が多いくらいである。ではそれならば、彼ら全員が「日本狂」（ジャパノマニア）であるかという、おそらくそうではない。日本に興味を持ったきっかけはマンガやアニメであろうが、彼らは在学中に日本語や日本文化を学ぶことを通じて、異文化を理解する素養や、自分とは異なる他者の存在を認める寛容な精神といったものを身につけ、やがてそこから世界（もちろん日本もその一員である）に羽ばたいていくのであろう。昨今問題になっている移民も含めて、世界中から様々な人びとが集まってくる、ヨーロッパの小国オランダにとっては、自国の内側に引きこもるのではなく、世界を見据えた広い視野を持つ人材の育成が、これからも必要不可欠となっていくに違いない。単なるジャパノマニアではなく、「世界への窓」としての日本に興味を持ち、関心を寄せる学生がこれからも増えるとすれば、一日本人としては大変誇らしい思いがする。

注

- 1) 本稿の素案は、本学総合文化研究所講演会「ライデン大学日本学科とオランダの教育制度」（2016年7月1日）に基づいている。
- 2) ウィキペディア、オランダの都市の一覧。2008年現在、1位アムステルダム（75万人）、2位ロッテルダム（58万人）、3位デン・ハーグ（48万人）、4位ユトレヒト（30万人）、5位ア

- イントホーフエン (21万人)。2017年3月25日閲覧。https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%80%E3%81%AE%E9%83%BD%E5%B8%82%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7
- 3) ウィキペディア、ドイツの都市の一覧。2008年現在、1位ベルリン (343万人)、2位ハンブルク (165万人)、3位ミュンヘン (123万人)、4位ケルン (95万人)、5位フランクフルト・アム・マイン (64万人)。2017年3月25日閲覧。https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%89%E3%82%A4%E3%83%84%E3%81%AE%E9%83%BD%E5%B8%82%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7
 - 4) WO は、Het watenschappelijk onderwijs (The scientific/ academic education)、HBO は、Het hoger beroepsonderwijs (The higher vocational education) の略称である。
 - 5) VWO の中にはラテン語必修といった、ドイツのギムナジウムのような難関校も存在する。
 - 6) HBO で1年生の課程を修了すると、WO への入学資格が与えられる。
 - 7) 13の公立大学とは、Universiteit Leiden (ライデン大学)、Universiteit Utrecht (ユトレヒト大学)、Rijksuniversiteit Groningen (フローニンゲン国立大学)、Erasmus Universiteit Rotterdam (エラスムス・ロッテルダム大学)、Universiteit Maastricht (マーストリヒト大学)、Universiteit van Amsterdam (アムステルダム大学)、Vrije Universiteit Amsterdam (アムステルダム自由大学)、Radboud Universiteit Nijmegen (ラドバウト・ナイメーヘン大学)、Universiteit van Tilburg (ティルブルフ大学)、Technische Universiteit Delft(デルフト工科大学)、Technische Universiteit Eindhoven(アイントホーフエン工科大学)、Universiteit Twente (トゥウェンテ大学)、Wageningen Universiteit (ワーヘニンゲン大学)。
 - 8) <http://statline.cbs.nl/statweb/publication/?vw=t&dm=slen&pa=03753eng&d1=a&d2=1-2,6,8-9,13,15-17&d3=0-2&d4=0&d5=10,18-l&hd=111123-1122&la=en&hdr=g3,t,g4&stb=g2,g1>。ここには注釈は掲載されていないが、この人数の中には、大学院生や外国人学生も含まれていると思われる。
 - 9) [http://statline.cbs.nl/Statweb/publication/?DM=SLEN&PA=71882eng&D1=0-1&D2=a&D3=10-15&D4=\(1-10\)-l&LA=EN&HDR=G3&STB=G1,T,G2&VW=T](http://statline.cbs.nl/Statweb/publication/?DM=SLEN&PA=71882eng&D1=0-1&D2=a&D3=10-15&D4=(1-10)-l&LA=EN&HDR=G3&STB=G1,T,G2&VW=T)
 - 10) いくつかの学部の施設の一部 (行政及びグローバル事情学部は全て) はデン・ハーグにある。
 - 11) 従来では通称「日本学科」と呼ばれることが多いようだが、厳密には「人文学部日本学専攻」というくらいの名称が相応しいように思われる。
 - 12) 田中正弘、森利枝「ボローニャ・プロセスへの対応による新たな学位・単位制度の活用と課題—ドイツ・スイスにおける取組から—」『21世紀教育フォーラム』第9号、2014年3月、9頁。

Japan Studies in Leiden University and the Dutch Education System

Hajime AKITOMI

The purpose of this paper is to clarify the higher education system in the Netherlands and the curriculum of Japan Studies at Leiden University. In the Netherlands, the higher education system is composed of WO (the scientific /academic education) and HBO (the higher vocational education) , the former of which is the university and the latter of which is the organization for vocational training. There are only 13 national universities and people who enter them are very limited in the Netherlands as compared with Japan. Leiden University was established in 1575 and is the oldest university in the Netherlands. The department of Japan Studies was established at Leiden University in 1855 and since then it has been one of the most famous research institutions for Japanology and the de facto European Japanology center. In the department of Japan Studies, about 100 students a year are enrolled and study not only language but also various subjects concerning the history and present conditions in Japan.

Keywords : the Netherlands, Leiden, University, Education, Japanology
